

評価結果の公表

施策名 未来を見据えた土地利用の推進による良好な都市空間の形成

1 第6次大府市総合計画における位置づけ、担当課

健康領域	まちの健康
政策	快適で便利な都市空間が整うまち
施策	未来を見据えた土地利用の推進による良好な都市空間の形成
主管部局	都市整備部
主管課	都市政策課
関係課	都市政策課

2 施策が目指す大府市の姿

内容	宅地や産業地などの都市的土地利用と農地などの自然的土地利用との調和がとれた良好な土地利用が図られ、誰もが快適で健やかな生活を送ることができる都市空間が形成されています。
----	--

3 令和3年度 施策フルコスト（単位：千円）

歳出（使ったお金）	R 3決算	R 4予算
(1)人件費	17,235	0
(2)事業費	22,808	33,110
フルコスト（歳出合計）	40,043	33,110
歳入（お金の出所）	R 3決算	R 4予算
(1)国庫支出金（国から出たお金）	2,600	3,260
(2)県支出金（愛知県から出たお金）	0	0
(3)市債（市の借金）	0	0
(4)その他特定財源（使い途が決まっているお金）	0	0
(5)一般財源（市税収入など）	20,208	30,623
歳入合計	22,808	33,883

4 「まちの健康」指標（施策評価指標）

有効性指標 1

指標名	「身近な地域で生活しやすいまちの形成に満足している」市民の割合										単位	%	
											現状値	52.2	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12		
計画値	53.0	53.0	54.5	54.5	56.0	56.0	57.5	57.5	59.0	59.0	60.0		
実績値	56.5	56.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	市民意識調査の「身近な地域で生活しやすいまちの形成」に対する満足度で「満足」又は「おおむね満足」と答えた市民の割合												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	土地区画整理事業の実施や地区計画制度の活用などにより、良好な市街地形成を図っています。												

有効性指標 2

指標名	総人口に占める市街化区域内の人口割合										単位	%	
											現状値	83.7	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12		
計画値	83.8	83.9	84.0	84.2	84.3	84.4	84.5	84.6	84.8	84.9	85.0		
実績値	84.2	84.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	市街化区域内人口(人)/総人口(人)×100												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	総人口に占める市街化区域内の人口割合は、84.2%のまま維持されています。本市の総人口は緩やかに増加しており、その増加分について、市街化区域に誘導できています。												

評価結果の公表

施策名 未来を見据えた土地利用の推進による良好な都市空間の形成

有効性指標 3

指標名	地区特性に応じたまちづくり計画（地区計画）の事業面積（累計）										単位	ha
											現状値	166.6
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
計画値	207.1	207.1	220.1	238.1	238.1	238.1	238.1	238.1	238.1	238.1	238.1	
実績値	207.9	212.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
算定式、データの出所等	地区計画の都市計画決定面積の累計値											
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	令和3年度は、大府一ツ屋地区計画を定め、現況の地域特性にふさわしい良好な居住環境の維持及び保全が図られています。											

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
都市計画推進事業	都市政策課	28,204 (28,204)	指標名	都市計画の決定及び変更件数累計	妥当性	A
			単年度計画値	7.0	有効性	A
			単年度実績値	11.0		
			単年度達成率	157.1%		
			最終目標に対する達成率	50.0%	効率性	A
事務事業の方向性						
A：拡大 本市にもいづれ訪れる人口減少期に対応すべく、鉄道沿線集約型の都市構造（住居系）や広域的交通体系活用型の都市構造（産業系）を目指します。						
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
都市景観推進事業	都市政策課	8,217 (8,217)	指標名	大府50景関連事業件数	妥当性	B
			単年度計画値	1.0	有効性	A
			単年度実績値	2.0		
			単年度達成率	200.0%		
			最終目標に対する達成率	200.0%	効率性	B
事務事業の方向性						
B：現状のまま継続 「大府市景観計画」に掲げる景観形成施策の継続的な実施により、「歩きながら五感で感じる四季・彩・時の景観づくり」を推進します。						

6 施策の事後評価

現状認識 (施策をとりまく状況の変化や課題等)	市街化区域において、大府共和西特定土地区画整理事業を始め、多くの民間資本を活用した住宅開発が促進されるとともに、大府一ツ屋地区計画を定め、居住、産業、自然環境などのバランスのとれた土地利用を推進しています。
施策の推進に向けた今後の方針	令和4年度には横根平子地区及び名和共和地区において、用途地域の見直しや地区計画制度を活用し計画的な土地利用を推進します。また、立地適正化計画を策定し、集約型都市構造としての都市機能の集積を図ることに加えて、居住区域を設定・誘導し、公共交通での連携を図り、利便性の高いまちづくりを推進します。

評価結果の公表

施策名 未来につながる良好な居住空間の形成

1 第6次大府市総合計画における位置づけ、担当課

健康領域	まちの健康
政策	快適で便利な都市空間が整うまち
施策	未来につながる良好な居住空間の形成
主管部局	都市整備部
主管課	都市政策課
関係課	都市政策課

2 施策が目指す大府市の姿

内容	土地区画整理事業や民間開発の適切な誘導などにより、魅力があり誰もが住みたくなる、良好な居住空間が形成されています。
----	---

3 令和3年度 施策フルコスト（単位：千円）

歳出（使ったお金）	R 3決算	R 4予算
(1)人件費	51,002	0
(2)事業費	752,680	845,655
フルコスト（歳出合計）	803,682	845,655
歳入（お金の出所）	R 3決算	R 4予算
(1)国庫支出金（国から出たお金）	54,670	117,591
(2)県支出金（愛知県から出たお金）	12	0
(3)市債（市の借金）	493,200	0
(4)その他特定財源（使い途が決まっているお金）	34,918	0
(5)一般財源（市税収入など）	169,880	728,063
歳入合計	752,680	845,654

4 「まちの健康」指標（施策評価指標）

有効性指標 1

指標名	「快適な住環境の整備に満足している」市民の割合										単位	%	
											現状値	44.9	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12		
計画値	45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0	55.0		
実績値	50.1	50.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	市民意識調査の「快適な住環境の整備」に対する満足度で「満足」又は「おおむね満足」と答えた市民の割合												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	「大府市開発等事業の手続及び基準等に関する条例」や法令に基づき、民間開発の適切な指導を行っています。												

有効性指標 2

指標名	北山地区・横根平子地区の土地区画整理事業の整備率										単位	%	
											現状値	8.1	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12		
計画値	27.7	47.2	70.1	88.1	95.9	98.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
実績値	23.8	38.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	執行済事業費/総事業費×100												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	北山地区・横根平子地区の土地区画整理事業において、令和3年度の整備率は、他事業関連の遅延に因り計画値を下回りました。両地区とも事業計画どおりの完了に向けて、他事業に係るより一層の情報共有に努め、適切な指導を行う必要があります。												

評価結果の公表

施策名 未来につながる良好な居住空間の形成

有効性指標 3

指標名											単位	
											現状値	0.0
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
計画値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
実績値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
算定式、データの出所等												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価												

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標				評価点	
土地区画整理事業	都市政策課	701,044 (701,044)	指標名	北山地区・横根平子地区の土地区画整理事業の整備率			妥当性	B
			単年度計画値	47.2			有効性	A
			単年度実績値	38.1				
			単年度達成率	80.7%				
			最終目標に対する達成率	38.1%			効率性	A
事務事業の方向性								
B：現状のまま継続 名古屋市に隣接し、大都市近郊として住宅開発、工業化、都市化が進み、公共施設の整備及び宅地の利用増進が求められてきています。円滑で健全な組合運営がなされ、事業計画に定めるとおり事業が進捗するよう、引き続き組合への指導及び補助金の交付を行い、良好な市街地の形成を図ります。								
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標				評価点	
宅地開発指導事業	都市政策課	17,432 (17,432)	指標名	事前協議申請件数			妥当性	A
			単年度計画値	25.0			有効性	A
			単年度実績値	36.0				
			単年度達成率	144.0%				
			最終目標に対する達成率	144.0%			効率性	A
事務事業の方向性								
B：現状のまま継続 宅地開発等は経済状況に左右される部分も多くあるため数値を読むことが困難ではありますが、比較的安定的に件数が推移しています。また、状況の変化に応じて基準等の見直しの必要性について検討します。								
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標				評価点	
市営住宅管理・整備事業	建設総務課	134,192 (134,192)	指標名	入居募集戸数			妥当性	B
			単年度計画値	10.0			有効性	A
			単年度実績値	13.0				
			単年度達成率	130.0%				
			最終目標に対する達成率	130.0%			効率性	B
事務事業の方向性								
B：現状のまま継続 引き続き市営住宅を適正に管理し、計画値を目標に入居募集を行い、長寿命化を図るよう保全に関する工事や修繕を行ってまいります。								

評価結果の公表

施策名 未来につながる良好な居住空間の形成

6 施策の事後評価

現状認識 (施策を とりまく状況 の変化や課題 等)	建築物がスクラップアンドビルドで更新される時代から、長期にわたり良好な状態で利用環境に配慮した建築物が建築される時代になりつつあります。また、市街地形成においては、良好な住環境の整備が求められています。
施策の推進 に向けた 今後の方針	宅地開発指導事業に関しては、大府市開発等事業の方法及び基準等に関する条例や法令に基づき、適切な指導・助言を行っていきます。 土地区画整理事業については、円滑で健全な組合運営がなされ、事業計画に定めるとおり事業が進捗するよう、引き続き組合への指導及び補助金の交付を行い、良好な市街地の形成を図ります。

評価結果の公表

施策名 人と車が共存できる安心・安全な移動空間の形成

1 第6次大府市総合計画における位置づけ、担当課

健康領域	まちの健康
政策	快適で便利な都市空間が整うまち
施策	人と車が共存できる安心・安全な移動空間の形成
主管部局	都市整備部
主管課	道路整備課
関係課	道路整備課

2 施策が目指す大府市の姿

内容	計画的な道路や歩道の整備、点検、補修をすることで、人と車が共存する道路空間が構築され、誰もが安心して移動でき、人や物の交流が活発化し、市全体が活力あるまちになっています。
----	---

3 令和3年度 施策フルコスト（単位：千円）

歳出（使ったお金）	R 3決算	R 4予算
(1)人件費	109,919	0
(2)事業費	1,078,965	1,234,572
フルコスト（歳出合計）	1,188,884	1,234,572
歳入（お金の出所）	R 3決算	R 4予算
(1)国庫支出金（国から出たお金）	153,365	211,404
(2)県支出金（愛知県から出たお金）	23,750	0
(3)市債（市の借金）	0	0
(4)その他特定財源（使い途が決まっているお金）	339,006	6,240
(5)一般財源（市税収入など）	562,844	989,739
歳入合計	1,078,965	1,207,383

4 「まちの健康」指標（施策評価指標）

有効性指標 1

指標名	都市計画道路整備率										単位	%	
											現状値	67.3	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11	R12		
計画値	69.1	69.1	70.1	71.8	72.9	73.6	73.6	73.6	73.6	73.6	76.0		
実績値	68.6	68.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	(都市計画道路の整備済延長／都市計画道路の計画延長) ×100												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	整備率は昨年度と同様であり、目標の達成水準には至っていません。今後も計画的に都市計画道路の整備を推進する必要があります。												

有効性指標 2

指標名	「歩行者の安全な移動空間の整備に満足している」市民の割合										単位	%	
											現状値	26.1	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11	R12		
計画値	28.0	28.0	30.5	30.5	33.0	33.0	35.5	35.5	38.0	38.0	40.0		
実績値	28.0	28.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	市民意識調査の「歩行者の安全な移動空間の整備」に対する満足度で「満足」又は「おおむね満足」と答えた市民の割合（最終目標値-現状値）÷11年間=単年度計画値												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	引き続き、誰もが安心して移動できる移動空間の整備を推進する必要があります。												

評価結果の公表

施策名 人と車が共存できる安心・安全な移動空間の形成

有効性指標 3

指標名											単位	
											現状値	0.0
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
計画値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
実績値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
算定式、データの出所等												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価												

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標				評価点	
幹線道路整備事業	道路整備課	46,885 (46,885)	指標名	幹線道路の整備済延長の割合			妥当性	A
			単年度計画値	15.8			有効性	B
			単年度実績値	7.3				
			単年度達成率	46.2%				
			最終目標に対する達成率	7.3%			効率性	A
事務事業の方向性								
B：現状のまま継続 国の交付金の有効活用などにより、計画的かつ継続的に道路整備を推進することで、交通の円滑化を図り、歩行者等の安心安全を確保します。								
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標				評価点	
補助幹線道路改良事業	道路整備課	60,321 (60,321)	指標名	補助幹線道路の改良済延長の割合			妥当性	A
			単年度計画値	23.0			有効性	B
			単年度実績値	18.1				
			単年度達成率	78.7%				
			最終目標に対する達成率	18.1%			効率性	A
事務事業の方向性								
B：現状のまま継続 幹線道路の整備状況等を踏まえ、効率的で効果的な道路整備を推進します。								
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標				評価点	
道路維持事業	道路整備課	397,821 (397,821)	指標名	要望等処理件数			妥当性	A
			単年度計画値	2,000.0			有効性	A
			単年度実績値	2,090.0				
			単年度達成率	104.5%				
			最終目標に対する達成率	104.5%			効率性	A
事務事業の方向性								
B：現状のまま継続 今後もインフラ施設の老朽化対応が必要です。適切なタイミングで修繕を行い、施設の長寿命化に対応します。								

評価結果の公表

施策名 人と車が共存できる安心・安全な移動空間の形成

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
財産取得事業	建設総務課	15,193 (15,193)	指標名	寄附採納	妥当性	A
			単年度計画値	10.0	有効性	A
			単年度実績値	21.0		
			単年度達成率	210.0%	効率性	A
			最終目標に 対する達成率	-		
事務事業の方向性 B：現状のまま継続 近年、道路内民地が生じた経緯を知る地権者が減少し、相続による新しい地権者との用地交渉が困難となっています。今後、道路内民地が生じた経緯について、丁寧な説明を行い、土地所有者の理解協力を得て、市民が安全で安心して通行できる道路の整備を進めます。						
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
財産管理事業	建設総務課	806,383 (806,383)	指標名	道路占用・使用許可、承認工事	妥当性	A
			単年度計画値	970.0	有効性	B
			単年度実績値	1,030.0		
			単年度達成率	106.2%	効率性	A
			最終目標に 対する達成率	-		
事務事業の方向性 B：現状のまま継続 宅地需要の増加に伴い、宅内排水の道路側溝への接続等のため道路掘削工事が増加することで、工事に伴う交通渋滞や道路の損傷が懸念されます。これらの原因である道路の掘返しを抑制するため、業者間の調整を密に図ることを指導します。						

6 施策の事後評価

現状認識 (施策を とりまく状況 の変化や課題 等)	県、市事業とも用地買収及び工事に着手をしており、着々と進んでいます。
施策の推進 に向けた 今後の方針	県、市事業とも供用開始に向けて計画的に事業を推進します。

評価結果の公表

施策名 緑花、親水施設の整備による潤いある都市空間の創出

1 第6次大府市総合計画における位置づけ、担当課

健康領域	まちの健康
政策	快適で便利な都市空間が整うまち
施策	緑花、親水施設の整備による潤いある都市空間の創出
主管部局	水と緑の部
主管課	水緑公園課
関係課	水緑公園課

2 施策が目指す大府市の姿

内容	市民と行政が一体となり、公園や緑地、緑道などの水と緑の空間創出とため池、農地、樹林地などの自然と景観の保全が行われ、市民の憩いの空間が整備されたまちになっています。
----	--

3 令和3年度 施策フルコスト（単位：千円）

歳出（使ったお金）	R 3決算	R 4予算
(1)人件費	36,381	0
(2)事業費	533,345	620,611
フルコスト（歳出合計）	569,726	620,611
歳入（お金の出所）	R 3決算	R 4予算
(1)国庫支出金（国から出たお金）	16,100	0
(2)県支出金（愛知県から出たお金）	35,279	22,000
(3)市債（市の借金）	0	0
(4)その他特定財源（使い途が決まっているお金）	68,248	0
(5)一般財源（市税収入など）	413,718	553,457
歳入合計	533,345	575,457

4 「まちの健康」指標（施策評価指標）

有効性指標 1

指標名	都市公園などの面積										単位	ha
											現状値	96.6
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
計画値	98.9	98.9	99.1	99.3	99.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
実績値	98.9	98.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
算定式、データの出所等	基準日（3月31日）時点の都市公園などの整備済面積											
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	令和3年度は横根立会池公園の整備を行いました。令和4年度の完成予定で、実績値が上昇する見込みです。											

有効性指標 2

指標名	緑道延長										単位	m
											現状値	18,695.0
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
計画値	20,045.0	20,045.0	20,415.0	20,490.0	20,565.0	20,640.0	20,715.0	20,790.0	20,860.0	20,930.0	21,000.0	
実績値	19,991.0	20,404.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
算定式、データの出所等	基準日（3月31日）時点の緑道整備済延長											
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	石ヶ瀬川緑道（森岡橋～深田）の右岸413mの整備を行い、実績値が増加しました。											

評価結果の公表

施策名 緑花、親水施設の整備による潤いある都市空間の創出

有効性指標 3

指標名	「水辺や緑と親しめる空間の整備に満足している」市民の割合										単位	%
											現状値	49.4
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
計画値	51.0	51.0	53.0	53.0	55.0	55.0	57.0	57.0	58.5	58.5	60.0	
実績値	54.0	54.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
算定式、データの出所等	市民意識調査の「水辺や緑と親しめる空間の整備」に対する満足度で「満足」又は「おおむね満足」と答えた市民の割合											
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	最新の市民意識結果では、目標値を達成しています。公園や緑道の新規整備や適切な維持管理を行い、サクラ、ツツジの植栽等を行ったことで、「水辺や緑と親しめる空間の整備に満足している」市民の満足度が前回調査より向上したと思われます。											

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
緑化推進事業	水緑公園課	21,509 (21,509)	指標名	緑地面積	妥当性	A
			単年度計画値	61,182.0	有効性	A
			単年度実績値	61,182.0		
			単年度達成率	100.0%		
			最終目標に対する達成率	79.6%	効率性	A
事務事業の方向性						
B：現状のまま継続 今後も市民のニーズを的確に捉え、事業に反映します。						
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
二ツ池セレトナ運営事業	水緑公園課	30,835 (30,835)	指標名	二ツ池セレトナ入場者数	妥当性	A
			単年度計画値	25,000.0	有効性	A
			単年度実績値	37,725.0		
			単年度達成率	150.9%		
			最終目標に対する達成率	150.9%	効率性	A
事務事業の方向性						
B：現状のまま継続 令和7年度の二ツ池セレトナ指定管理者更新に伴い、二ツ池公園を指定管理の範囲に加えるよう検討します。						
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
緑道整備事業	水緑公園課	20,588 (20,588)	指標名	緑道延長	妥当性	A
			単年度計画値	20,045.0	有効性	A
			単年度実績値	20,404.0		
			単年度達成率	101.8%		
			最終目標に対する達成率	97.2%	効率性	A
事務事業の方向性						
B：現状のまま継続 緑道の連続性を保つため、引き続きコースや工法を工夫する必要があります。						

評価結果の公表

施策名 緑花、親水施設の整備による潤いある都市空間の創出

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
公園整備事業	水緑公園課	57,506 (57,506)	指標名	都市公園面積	妥当性	A
			単年度計画値	98.9	有効性	A
			単年度実績値	98.9		
			単年度達成率	100.0%	効率性	A
			最終目標に 対する達成率	98.9%		
事務事業の方向性 B：現状のまま継続 今後も市民のニーズを的確に捉え、事業に反映します。						
公園等施設管理事業	水緑公園課	317,392 (317,392)	指標名	公園管理面積	妥当性	A
			単年度計画値	98.9	有効性	A
			単年度実績値	98.9		
			単年度達成率	100.0%	効率性	A
			最終目標に 対する達成率	98.9%		
事務事業の方向性 B：現状のまま継続 今後も市民のニーズを的確に捉え、事業に反映します。						
市民緑化推進事業	水緑公園課	8,627 (8,627)	指標名	民有地緑化制度を活用した植栽本数	妥当性	A
			単年度計画値	2,000.0	有効性	A
			単年度実績値	415.0		
			単年度達成率	20.8%	効率性	A
			最終目標に 対する達成率	20.8%		
事務事業の方向性 B：現状のまま継続 提案型緑花推進事業について、新規団体が提案しやすいよう改善する必要があります。						
緑花維持管理事業	水緑公園課	191,736 (191,736)	指標名	竹林の保全箇所数	妥当性	A
			単年度計画値	0.0	有効性	A
			単年度実績値	0.0		
			単年度達成率	0.0%	効率性	A
			最終目標に 対する達成率	0.0%		
事務事業の方向性 B：現状のまま継続 鞍流瀬川モデル地区について、市民と協働で行う方法を検討する必要があります。						

評価結果の公表

施策名 緑花、親水施設の整備による潤いある都市空間の創出

6 施策の事後評価

現状認識 (施策を とりまく状況 の変化や課題 等)	都市の緑は、環境面・社会面・経済面といった多岐面に渡って良い影響を与えます。その緑が持つ多機能性を発揮させ、社会的課題の解決に寄与することが期待されています。
施策の推進 に向けた 今後の方針	令和2年9月に策定した「大府市緑の基本計画」に基づき、市民の憩いの空間を整備できる施策を実施していきます。

評価結果の公表

施策名 下水の適正処理による快適な生活空間の創出

1 第6次大府市総合計画における位置づけ、担当課

健康領域	まちの健康
政策	快適で便利な都市空間が整うまち
施策	下水の適正処理による快適な生活空間の創出
主管部局	水と緑の部
主管課	水道工務課
関係課	水道工務課

2 施策が目指す大府市の姿

内容	下水道施設の長寿命化と耐震化が図られ、持続可能な施設の維持管理と災害時の被害の軽減を実現しています。また、中長期的な視点に立った下水道事業の経営の健全化が図られ、下水の適正処理による快適な生活空間が創出されています。
----	--

3 令和3年度 施策フルコスト（単位：千円）

歳出（使ったお金）	R 3決算	R 4予算
(1)人件費	24,223	0
(2)事業費	1,335	2,274
フルコスト（歳出合計）	25,558	2,274
歳入（お金の出所）	R 3決算	R 4予算
(1)国庫支出金（国から出たお金）	260	608
(2)県支出金（愛知県から出たお金）	216	365
(3)市債（市の借金）	0	0
(4)その他特定財源（使い途が決まっているお金）	0	0
(5)一般財源（市税収入など）	859	0
歳入合計	1,335	973

4 「まちの健康」指標（施策評価指標）

有効性指標 1

指標名	「下水道処理などによる水路や川などの水質保全に満足している」市民の割合										単位	%	
											現状値	41.9	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12		
計画値	46.6	45.0	48.0	48.0	51.0	51.0	54.0	54.0	57.0	57.0	60.0		
実績値	46.6	46.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	市民意識調査の「下水道処理などによる水路や川などの水質保全」に対する満足度で「満足」又は「おおむね満足」と答えた市民の割合												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	下水道の普及により、水路や河川の水質が改善されているため、おおむね市民の理解が得られています。												

有効性指標 2

指標名	水洗化率										単位	%	
											現状値	93.5	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12		
計画値	93.9	94.1	94.3	94.5	94.7	94.9	95.1	95.3	95.5	95.7	96.0		
実績値	93.7	93.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	水洗便所設置済人口/下水道処理区域内人口×100												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	単年度目標は達成できませんでしたが、普及啓発等を行うことで、毎年水洗化率は向上しています。												

評価結果の公表

施策名 下水の適正処理による快適な生活空間の創出

有効性指標 3

指標名	経費回収率										単位	%
											現状値	64.6
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
計画値	70.0	73.0	76.0	79.0	82.0	85.0	88.0	91.0	94.0	97.0	100.0	
実績値	59.1	56.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
算定式、データの出所等	下水道使用料/汚水処理費（公費負担分を除く）×100											
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	前年度に対して2.3ポイント低下しました。下水道事業の経営改善への更なる取組が必要です。											

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標				評価点	
汚水整備事業	水道工務課	8,542 (8,542)	指標名	汚水整備実施済面積		妥当性	A	
			単年度計画値	1,296.7		有効性	A	
			単年度実績値	1,296.7		効率性	A	
			単年度達成率	100.0%				
			最終目標に対する達成率	97.9%				
事務事業の方向性 B：現状のまま継続 市街化区域の整備はおおむね完了していますが、他事業に関連する場合や、新たに下水道需要が発生した場合等に対応するため事業を継続していきます。								
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標				評価点	
汚水管渠等維持管理事業	水道工務課	14,677 (14,677)	指標名	汚水維持管理面積		妥当性	A	
			単年度計画値	1,296.7		有効性	A	
			単年度実績値	1,296.7		効率性	A	
			単年度達成率	100.0%				
			最終目標に対する達成率	97.9%				
事務事業の方向性 B：現状のまま継続 市街化区域の整備はおおむね完了しており、汚水管渠等を良好な状態で流れるように保つために、日頃から維持管理を適切に行っていきます。								
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標				評価点	
水質環境保全事業	環境課	3,324 (3,324)	指標名	合併処理浄化槽設置費用補助基数		妥当性	B	
			単年度計画値	10.0		有効性	B	
			単年度実績値	6.0		効率性	B	
			単年度達成率	60.0%				
			最終目標に対する達成率	60.0%				
事務事業の方向性 B：現状のまま継続 近年、合併処理浄化槽への転換件数が減少しており、補助内容を見直す必要があります。								

評価結果の公表

施策名 下水の適正処理による快適な生活空間の創出

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
			指標名			
下水道経営事業	水道経営課	0 (0)	一般会計からの繰入金（他会計負担金、他会計補助金等）		妥当性	A
			単年度計画値	1,090.0	有効性	A
			単年度実績値	1,090.0		
			単年度達成率	100.0%		
			最終目標に対する達成率	0.1%	効率性	B
事務事業の方向性						
A：拡大						
本市の人口は緩やかに増加する見込みですが、世帯人数の減少や節水型機器の更なる普及により、下水道使用料収入は将来的に減少する見込みです。そのため、将来にわたって安定的に事業を継続するため、施設・設備及び管渠の更新のバランスを考慮しながら収支の均衡を図るなど、引き続き経営の効率化に努めます。						

6 施策の事後評価

現状認識 (施策をとりまく状況の変化や課題等)	令和2年度から下水道事業を公営企業会計化したことで、貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成し、経営状況を正確に把握できるようになりました。
施策の推進に向けた今後の方針	健全な事業経営を行えるように、令和4年度、令和7年度に段階的に使用料を改定します。また、事業にかかる経費を減らすため、中長期計画の定期的な見直しによる工事費用の平準化、国県補助対象事業の活用、地方債残高の削減、下水道使用料収納率の維持向上に努めます。

評価結果の公表

施策名 安全な水の安定供給

1 第6次大府市総合計画における位置づけ、担当課

健康領域	まちの健康
政策	快適で便利な都市空間が整うまち
施策	安全な水の安定供給
主管部局	水と緑の部
主管課	水道経営課
関係課	水道経営課

2 施策が目指す大府市の姿

内容	水道施設の適切な維持管理と計画的な更新により、災害に備えるとともに、健全な経営基盤を維持し、安全な水を安定的に供給しています。
----	---

3 令和3年度 施策フルコスト（単位：千円）

歳出（使ったお金）	R 3決算	R 4予算
(1)人件費	0	0
(2)事業費	0	0
フルコスト（歳出合計）	0	0
歳入（お金の出所）	R 3決算	R 4予算
(1)国庫支出金（国から出たお金）	0	0
(2)県支出金（愛知県から出たお金）	0	0
(3)市債（市の借金）	0	0
(4)その他特定財源（使い途が決まっているお金）	0	0
(5)一般財源（市税収入など）	0	0
歳入合計	0	0

4 「まちの健康」指標（施策評価指標）

有効性指標 1

指標名	「水の安定供給に満足している」市民の割合										単位	%	
											現状値	73.4	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12		
計画値	75.0	75.0	77.0	77.0	79.0	79.0	81.0	81.0	83.0	83.0	85.0		
実績値	80.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	市民意識調査の「水の安定供給」に対する満足度で「満足」又は「おおむね満足」と答えた市民の割合												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	災害や事故による断水などがなかったため、高い満足度が得られていると思われます。感染症対策として手洗い・うがいが実施され、水道水に触れる機会が多いため、引き続き、水の安定供給に努めます。												

有効性指標 2

指標名	経常収支比率（水道事業会計）										単位	%	
											現状値	127.5	
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12		
計画値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
実績値	125.6	122.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
算定式、データの出所等	経常収益/経常費用×100												
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	経常収支比率は、経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すものです。この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、100%以上であれば経常利益を生み出していることを意味します。令和3年度の実績値である122.8%は、収支が良好であることを示しています。												

評価結果の公表

施策名 安全な水の安定供給

有効性指標 3

指標名	管路健全度										単位	%
											現状値	90.6
年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
計画値	92.0	93.0	93.5	94.0	94.5	95.0	95.5	96.0	96.5	97.0	98.0	
実績値	90.7	90.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
算定式、データの出所等	管種ごとに設定した更新基準年数以内の管路延長/管路延長×100（但し、管路延長は口径50ミリ以上）											
計画値、実績値の推移に関する分析と評価	第5次大府市総合計画時に重要給水施設へ給水する水道管の耐震化についてはおおむね完了しましたが、他占有者との関連工事の中止や延期などにより未発注となった工事があり、管路健全度は予定数値に達していません。											

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
経営基盤の充 実事業	水道経営課	0 (0)	指標名	水道料金の調定件数	妥当性	A
			単年度計画値	207,494.0	有効性	A
			単年度実績値	209,170.0		
			単年度達成率	100.8%		
			最終目標に 対する達成率	92.2%	効率性	A
事務事業の方向性						
B：現状のまま継続 本市の人口は緩やかに増加する見込みですが、給水量は、節水機器のさらなる普及による生活用水の減少や、大口使用者の地下水利用等の影響から、将来的には減少する見込みです。そのため、施設・設備及び管路の更新のバランスを考慮しながら収支の均衡を図り、安定した経営を行う必要があります。						
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
配水施設の整 備事業	水道工務課	0 (0)	指標名	施設の健全度割合	妥当性	A
			単年度計画値	100.0	有効性	A
			単年度実績値	100.0		
			単年度達成率	100.0%		
			最終目標に 対する達成率	100.0%	効率性	A
事務事業の方向性						
B：現状のまま継続 今後も継続する方針です。今後も計画に沿った更新を実施します。						
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
管路施設の整 備事業	水道工務課	0 (0)	指標名	新設配水管布設延長	妥当性	A
			単年度計画値	100.0	有効性	A
			単年度実績値	907.8		
			単年度達成率	907.8%		
			最終目標に 対する達成率	76.0%	効率性	A
事務事業の方向性						
B：現状のまま継続 今後老朽化した管路の増加が見込まれますが、継続的に更新を行い健全な管路を維持していきます。						

評価結果の公表
 施策名 安全な水の安定供給

事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
配給水管理事業	水道工務課	0 (0)	指標名	有収率	妥当性	A
			単年度計画値	97.0	有効性	A
			単年度実績値	96.8		
			単年度達成率	99.8%	効率性	A
			最終目標に対する達成率	99.8%		
事務事業の方向性						
B：現状のまま継続 今後も継続する方針です。有収率について、引き続き現状の高水準を維持し、配水施設の適切な維持管理により無事故の継続に努めます。						
事務事業名	課名	フルコスト (前年度比)	最重要指標		評価点	
水の有効利用推進事業	水道工務課	0 (0)	指標名	情報提供（市公式ウェブサイト）	妥当性	A
			単年度計画値	12.0	有効性	A
			単年度実績値	12.0		
			単年度達成率	100.0%	効率性	A
			最終目標に対する達成率	9.1%		
事務事業の方向性						
B：現状のまま継続 新型コロナウイルスの感染状況等に留意しつつ、今後も継続していきます。						

6 施策の事後評価

現状認識 (施策をとりまく状況の変化や課題等)	水需要に合わせた事業を展開し、安全な水道水を安定的に供給する体制を整えてきました。本市の人口は緩やかに増加する見込みですが、給水量は、節水機器の更なる普及による生活用水の減少や、大口使用者の地下水利用等の影響から、将来的には減少する見込みです。
施策の推進に向けた今後の方針	『大府市水道ビジョン2030』の中で、具体的な施策を展開する上での目指すべき方向性（目標）として、「安全」「強靱」「接続」の3つの柱を掲げています。また、「大府市水道事業経営戦略」では、投資・財政計画として、施設、設備及び管路の更新の考え方、収支の見通しや今後の取組などを掲げています。今後も水道施設の適切な維持管理や更新等により、将来においても安全な水道水を安定して供給できるよう、水道事業の安定経営に努めていきます。